

# 地域で社会活動を始めるための 8つのレシピ

— 牧之原の市民から学んだこと

- レシピ1 声をかけられたら参加してみよう!
- レシピ2 一緒に活動したいと思う人と始めよう!
- レシピ3 世代や考え方、立場を超えて、つながろう!
- レシピ4 「“まち”を良くしたい」という思いが第一歩。
- レシピ5 自分の思いを大切にしよう!
- レシピ6 楽しんで活動しよう!
- レシピ7 まずは、できる範囲から始めよう!
- レシピ8 次世代を大切にしよう!

【制作】

静岡県立大学 H29 年度 地域志向研究 研究チーム

「人と人とのつながりは社会活動への参加にどのような影響を与えるか？」

この『8つのレシピ』は、静岡県牧之原市の社会活動のキーパーソン6人のインタビューのエッセンスをまとめたものです。私たちは、どのようにして、この6人の方々にたどりついたのでしょうか？ それは、2017年12月7日におこなったワークショップ、「人と人とのつながりは社会活動にどのような影響を与えるか？」からです。

「社会活動」とは「人々が自主的に集まって行う市民としての活動」で、文化、環境、福祉、産業など、本当にさまざまな活動が含まれます。6人の方々のお名前は、このワークショップに参加してくださった30名の市民の方が、「ご自分の社会活動に影響を与えた方」として教えてくださったのです。

## ■謝辞

本研究は、静岡県立大学平成29年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」地域を志向した研究「人と人とのつながりは社会活動にどのような影響を与えるか？」の助成を受けて実施しました。ここに厚く感謝いたします。

## ■研究チーム

津富 宏 (静岡県立大学国際関係学部・教授)

副島 里美 (静岡県立大学短期大学部子ども学科・准教授)

後藤 隆昭 (静岡県立大学言語コミュニケーション研究センター・特任講師)

東 宏乃 (静岡県立大学「ふじのくに」みらい共生センター・地域連携コーディネーター)

## ■インタビューおよびテープ起こしの協力者

日野聡子さん、勝又俊一郎さん、田島美智子さん、美和千里さん

## ■挿し絵・デザイン: 杉本恵子

■連絡先: 津富研究室 E-mail: tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp

■発行: 2018年3月31日









## 研究の方法について

2017年12月7日、「人と人とのつながりは社会活動にどのような影響を与えるか?」というテーマで、牧之原市で「社会活動」をなさっている市民の方と一緒に、ワークショップを行いました。「社会活動」とは、「人々が自主的に集まって行う市民としての活動」。文化、福祉、産業、環境など幅広い活動が含まれます。

地域のお祭り、図書館の拡充、子どもの居場所、ファシリテーション、国際交流、政治、原発と、多様な社会活動にかかわっておられる、10代から70代の市民30名に、牧之原市全域からご参加いただきました(もっと多くの方にお声がけしたのですが、お忙しく、ご参加いただけなかった方もおられました。)

ワークショップの初めに、これら多様な参加者がお互いに何かしらのつながり

## 牧之原の社会活動のキーパーソン6人のご紹介



**横山裕之さん** (牧之原市副市長。静岡まきのはらフィルムコミッション・創設メンバー)

ご両親は、お茶農家で、昭和の時代にイチゴ栽培も手掛けた篤農家の一面をもつ。旧相良町役場職員だった40才代の時に、映画『ウォーターボーイズ』の舞台となる相良中学校のプールをはじめロケ地として撮影を受け入れたことをきっかけに、牧之原市を映画撮影の舞台として売り出すことに成功する。また、「夢's come相良」のメンバーとして活躍する一方、地域住民として萩間地区大寄で地域のお祭りを作ろうと、「大の字焼き」を始めた。行政職員が市民と協働するには、一緒に汗をかくことが、基本中の基本である、と考えている。1957年、旧相良町大寄生まれ。



**増田裕志さん** (海まで0分の宿「海岸通り」オーナー。まきのはら茶漬け開発者)

祖父母は料亭を経営、ご両親は相良で食堂を開く。高校時代は、三重県にある日生学園第二高校で寮生活を送る。牧之原市商工会青年部の副部長の時に、商工会職員の小塚さんと「ウォーターボーイズ・ショー」を相良で行う企画を成功させる。その後、商工会観光サービス部とJAハイナンのコラボレーションで、「牧之原の食を考える会」を開催し、「まきのはら茶漬け」の開発を手がける。「どんな結果になっても、失敗はない。」が持論。1965年、袋井市で生まれ、旧相良町須々木で育つ。



**渡辺美穂子さん** (アカウミガメ保護団体カメハメハ王国NGO・女王)

明治時代に祖父が油田の開発のために新潟から旧相良町に移り住む。少女時代はオテンパで、男子と、ザリガニ採りや川で泳ぎ、ドッジボールにいそむ。1995年に、静岡県の女性海外研修でノルウェーとドイツなどを視察し、自然に親しむ教育の重要性を知り、アカウミガメ保護団体「カメハメハ王国NGO」の創設から関わる。「臆せずいろいろなことにチャレンジし、明るく行動すれば目に留めてもらえる。」がモットー。1949年、旧相良町菅ヶ谷生まれ。



**水嶋みゆきさん** (まきのはらし図書館友の会・会長)

就職し千葉県で働いた後、結婚を機に旧相良町の住人に。夫はサラリーマンで、その先祖は田沼城下で海運業を営んでいた。子育ての傍ら、PTAの役員を皮切りに地域に出るようになり、本の読み聞かせボランティアを続けながら、図書館拡充の活動に携わる。自分の子どもだけでなく、周囲の子どものために何かできないかと考えて、地域活動の輪を広げていった。「(常識は時代と共に変わるが)一つある真実を見極めたい。」が願い。1959年、旧榛原町細江生まれ。



**横山奈緒美さん** (榛南おやこ劇場・前運営委員長。人形劇団茶間屋ショーゴ・役者)

「わらび座」の島田公演の実行委員会で知り合ったショーゴさん(生業は半農・半人形劇)と結婚して、旧相良町萩間地区大寄に来る。子どもの保育園時代の親同士のつながり、生協の共同購入を通じて、萩間に仲間を増やしていく。西原市長(当時)のブログに刺激を受け、榛南おやこ劇場の運営委員長として、劇場を地域社会と結ぶことに力を入れる。「みんなが喜んでくれることをやって、「ありがとう」、と言われるとうれしい。」が活動の原動力。1959年、島田市生まれ。



**片瀬紀子さん** (みらい子育てネット牧之原・事務局、児童館職員、学童支援員)

実家は養鰻業。職場結婚で旧榛原町勝保へ。陸上のコーチをやっていた夫は土・日の不在が多く、「子育ては一人では無理!」と思い知った頃に、生協の活動で知り合った地域の方や、児童館の先生、幼稚園のママ友に助けられる。その後は、読み聞かせボランティアや自主活動のプレイパーク、榛南おやこ劇場等で水の合う仲間と活動を共にし、「みらい子育てネット牧之原」の代表を10年以上務め、現在は事務局長として「できる事をできることから進めよう!」と、楽しんで活動中。1967年、榛原郡吉田町生まれ。